

「霧島発 地域の絆」フォーラム
～「ありがとう」と「お互いさま」の行き交うまちへ～

目的

霧島市では、平成 28 年度から生活支援体制整備事業に取り組んでおり、これまで、地域資源の把握や地域の集いの場の創出に主眼を置いて事業を進めてきたところである。

霧島市すこやか支えあいプラン 2018 では、2025 年の“きりしま”の姿として 4 つの将来像を掲げている。その 1 つである「将来像 1：つながろう、つなげよう、元気・安心・生きがいのもてるまち きりしま」では、「自治会活動や地区自治公民館活動などの地域活動を尊重し、さらにそれらの活動を発展・活性化させながら、身近な地域の世話焼きさんを発掘・養成し、地域の実情に合わせた活動を推進する」ことが挙げられている。

この将来像の実現のため、また、生活支援体制整備事業の取組の一つである「生活支援の担い手の養成やサービスの開発」として、これまで把握した先駆的な地域活動を、各地域の世話焼きさんをはじめとする地域住民に紹介し、地域の集いの場から一歩進んだ互助活動の普及を目指して、地域の絆フォーラムを開催する。



参加費
無料

「霧島発 地域の絆」 フォーラム

～「ありがとう」と「お互いさま」の行き交うまちへ～

平成30年

日時

9月27日(木)

13時30分～16時20分

場所

国分シビックセンター 多目的ホール

【主催】

霧島市・霧島市社会福祉協議会

*このフォーラムは霧島市生活支援体制整備事業により実施します。

お問い合わせ

霧島市社会福祉協議会 地域福祉課
〈生活支援コーディネーター〉 町田・牛牧・吉元・川添

TEL:0995-45-1557

〒899-4332 霧島市国分中央3丁目33-10

地域づくりは、 「人」と「人」との つながりづくり

国分清水地区
三郷自治会 自治会長

徳永 光和氏



地域の活性化や自治会活動への協力を目的に「三郷ドリーム同友会」を結成。後継者育成のため、自治会活性化の計画立案・発表・実行といったメンバー個々の能力向上に努めている。また、介護予防や健康増進等を目的に「三郷げんき会」を立ち上げ、月1回開催し、毎回30名前後が参加する集いの場となっている。



人の役に立てる「喜び」と、 まわりの人に支えられる 地域づくり

西牧之原公民館
在宅福祉アドバイザー

久米村 しげ子氏



西牧之原地区は、在宅福祉アドバイザーを中心に「近隣ともしびの会」を結成。高齢者宅の声かけ・見守り活動や食事会、手作り弁当配り等さまざまな活動を行っている。また、「西牧之原いきいきサロン」では健康体操や歌の練習、ゲームなど。「土曜ランチ」では、下校後の子供たちとの交流も行われている。



演題及び
パネリスト

買い物よりおしゃべり！ 移動販売がもたらした ふれあいの場

溝辺特産品協会
会長

笹峯 政幸氏



溝辺町物産館よこでーろは、市内ナンバーワンの売り上げを記録した物産館。出品される会員数も130名を超え、会員さんたちの憩いの場ともなっている。平成27年より買い物弱者支援や高齢者の見守り活動、何よりもショッピングの楽しさをいつまでも味わってほしいと移動販売を開始。今では販売先が住民のふれあいの場となっている。



コーディネーター



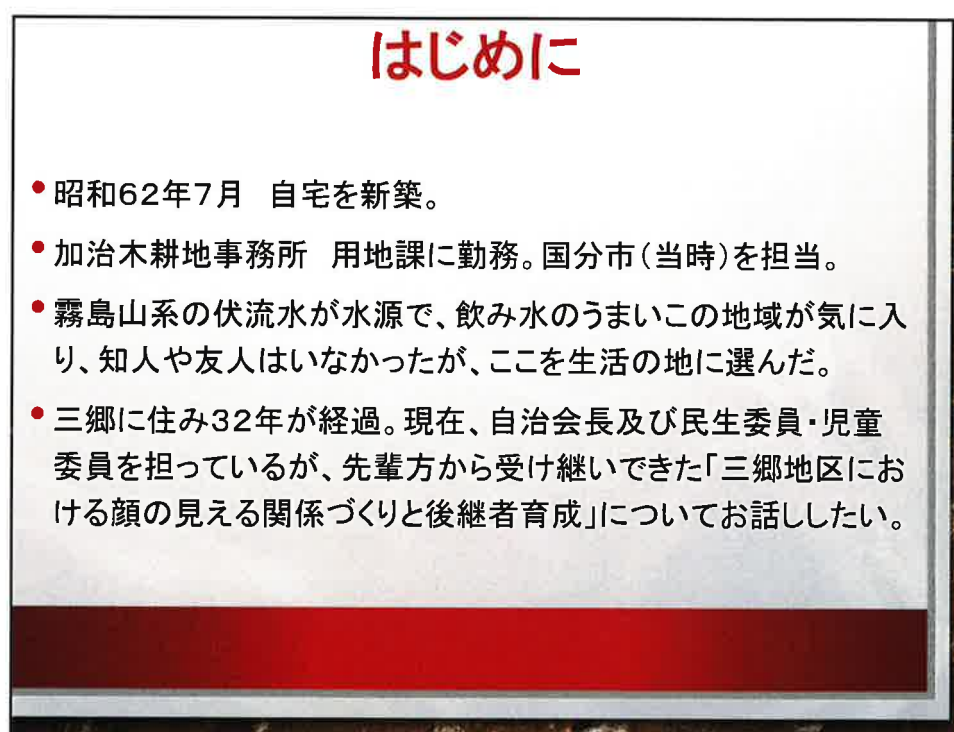
霧島市地域密着型サービス事業者連合会
会長

黒岩 尚文氏

国分府中町にある「地域サポートセンターよいどこい」をはじめ県内3ヶ所の介護サービス事業所を運営する「株式会社 浪漫」の代表取締役。また、全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 副理事長として全国をまたにける「地域づくり」の第一人者。

※返信用はがき、もしくはお電話にて9月21日(金)までにお申込をお願い致します。

※ご不明な点等ございましたら、お問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。



素晴らしい 我が 三郷

- 清水公民館区の中央よりやや北側に位置する。
- 高度経済成長期の新興住宅地で、当時の若い世代と現在の若い世代が混在する街。新築当初は田んぼしかなかったが、数年後には住宅だらけとなった。平成9年4月には、児童数が増えたため、北小・青葉小に分離。
- 平成30年4月1日現在 世帯数:403世帯 人口:974人(男性:490人 女性:484人) 自治会加入率:220世帯 54.6%
- 自治会活動が活発な地域で、環境美化やスポーツ活動、地域のふれあい活動などたくさんの取り組みがある。
- 特に、十五夜祭は、今年38回目を迎える目玉行事。



轍 ～先人の歩んできた道程～

- 新居へ引越し後すぐに、妻と小学生の娘・息子連れて班長・自治会長宅にあいさつ回り。その時の対応が親切であったことを今でも鮮明に記憶している。
- 当時の自治会長は、非常にリーダーシップのある方で、その背中をいつも見ていた。のちに老人クラブ会長となられ、共に活動することとなる。
- 当時の班長は、郷土史・歴史に詳しく、この地域のことをいろいろ教えてくれた。歴史だけでなく住民一人ひとりの得意分野も把握しており、「〇〇のことだったら△△さんに頼め」などの的確なアドバイスをくれた。
- そんな先輩方の姿や教えが、今の自分を育ててくれたという感慨がある。

三郷ドリーム同友会のはじまり

- 平成11年3月 三郷公民館 建設
- 「新しい公民館を活用しよう」と同友会を結成。規約を作成し、地域の活性化や自治会活動に協力することを目的に、公民館での定期的な集会を無料で行うこととした。
- 主なメンバーは、国分市時代(異業種交流が盛んだった時代)に地区対抗のナイターソフトボール大会を行っていた面々で、約30名で活動開始。
- 主な活動は、防犯パトロールや花壇の手入れ、そば打ち、そして、十五夜祭での屋台や踊り、定期的な飲ん方など
- 定例会は、月1回 19～20時:行事等の打ち合わせ
20時～ 飲みニュケーション



自治会役員の後継者育成

- 同友会メンバーの「自治会活動等の計画を立案し、みんなの前で発表し、実行する」能力を引き出せるように、運営は各メンバー持ち回りとし、代表者を1年間の輪番制とした。
- このことが、自治会役員を行う自信にもつながり、現在自治会役員13名中5名が同友会メンバーとなっている。
- でも、一番大切なのは「笑い」と「雰囲気づくり」。押し付けてしまえば「やらされ感」が生まれてしまう。なにごとにも楽しくなけりや始まらない。楽しくなけりや続かない。楽しいからこそ、お互いの気心も知れてくるし、顔の見える関係づくりにもつながる。

三郷げんき会のはじまり

- 平成20年3月 退職。
- 退職と同時に民生委員・児童委員を任され、また、前述の老人クラブ会長から入会のお誘いがあった。これは、民生委員・児童委員として高齢者の顔を覚えることや相談を受ける直接の場となるため、ありがたく入会し、活動を共にさせていただいた。
- 平成22年、健康生きがいづくり推進モデル事業が開始されたが、こういった活動は自治会でもできることから、高齢者に呼びかけ、1年間の活動を計画することにした。
- 内容は、月1回、体力づくりや出前講座の開催、自主活動等を2時間程度行った。昨年度より「地域のひろば推進事業」で継続中。

三郷げんき会の活動

- 三郷げんき会では、「計画する人」、「会計をする人」、「人集めをする人」など、それぞれの分野で長けた人に役割を担ってもらい運営を行っている。
- 民生委員・児童委員の立場から、高齢者の心得として、「土壇場で助けを求めないこと」～日頃から足が不自由になったら・・・とか買い物ができなくなったら・・・などを想定して～早め早めの準備を呼びかけた。
- これらの情報は、三郷ドリーム同友会のメンバーとも共有した。

三郷げんき会の活動



三郷げんき会の良いところ

- 活動を始めてもう6年目。年間計画の配布と無線放送による呼びかけだけで、毎回30名前後の人が集まる。
- お互いの気心もよくわかっており、本音でモノが語れる。
- 清水公民館内の自治会では、8ヶ所が地域のひろばに取り組んでいるが、どこも民生委員・児童委員が関わっており、お互いの取り組みについて情報交換するだけでなく、立ち上げをしたい地域の相談にのるなど連携を図るよう努めている。

情報公開を重視

- 平成27年4月 自治会長に就任。
- 自治会の運営は、老人クラブ、子ども会をはじめ、会員皆の協力なしではできない。運営の基本は「役員会の協力」と自覚し、「情報公開」を重視した。
- 月1回の役員会では、「先月の結果」、「今月すること」、「来月の計画」等を具体的に説明し、各班ごとに取り組んでもらうことに主眼を置いた。
- その中で、老人クラブ、子ども会、げんき会、ドリーム同友会、民生委員活動などの情報も詳しく取り入れたことにより、役員の理解が深まった。

最後に

- 三郷に住んで、32年が経過。この間、地域の先輩たちに教えられ育てられてきた。
- 今の私にできることは、地域住民に現状を伝え、そして考え、今を楽しみ、これからを考えること。
- 今日の発表にあたり、私を育ててくれた諸先輩方、三郷ドリーム同友会をはじめ地域のみなさんに、感謝の意とエールを送りたい。

人の役に立てる「喜び」と まわりの人に支えられる 地域づくり

福山圏域 西牧之原公民館

在宅福祉アドバイザー

久米村 しげ子

愛しき 西牧之原

- ・ 黒酢や福山黒牛などで知られる旧福山町の上場に位置する。
- ・ 世帯数:357世帯 人口:755人（男性:370人 女性:385人）
- ・ 江戸時代には、豊前国と薩摩国を結ぶ日向街道が整備され、物資や人の往来の中継地として牧之原も大いににぎわっていた。現在も「大隅の玄関」と呼ばれ、交通の要衝となっている。
- ・ 年平均気温が15度で、冬には氷点下5～6度になることもあり、県下において最低気温を記録することも少なくない。
- ・ 市内に4店舗展開する「鹿児島ラーメン みよし家」の本店所在地。
- ・ 標高483.5mの惣陣が丘は、島津氏と肝属氏が廻城争奪をかけて戦い、島津氏の三州統一の足がかりとなった古戦場。ひと昔前は牛の放牧地となっていた。
- ・ 30年程前、ふっぎやまぼっけもん会がつつじを植えた。ゴールデンウィーク、お盆、年末年始は、イルミネーションが灯され人々の心を和ませている。



近隣ともしびの会

《私は牧之原に住んで約35年》

- この活動がいつから始まったか詳細は存じ上げていないが、私が移住する前からある活動。
- 独居老人宅の訪問、地域行事の盛り上げ等さまざまな活動を展開。
- はじめは、「ともしびグループ」という名称だったが、町の補助金で行われていた「近隣ネットワーク」と活動が似通っていたため、合併して「近隣ともしびの会」となる。
- 現在、在宅福祉アドバイザーを中心に15名で、高齢者宅への声かけ訪問、食事会、年に1回の手作り弁当配り、ふくれ菓子作り等さまざまな活動を行っている。



西牧之原いきいきサロン

≪私の性分は、「思いついたら即行動！あとは走りながら考える」≫

- 社協から、「声かけ訪問している高齢者らを集めて茶飲みをしてみませんか」とサロン立ち上げの話があり、「あら、楽しそう！」と右も左もわからないまま始めてみることに・・・
- 平成19年11月より月1回開催。気が付くと、もう11年も・・・
- 本来は、集まった人たちが、自主的にお茶を入れたりテーブルを準備したりするものだが・・・
- はじめは、20名のともしび会メンバーが準備し、集まった人たちと茶飲みをするところから・・・
- 途中から、メンバーを半分に分け、交互に準備の係を・・・
- いずれは私も、「一住人」として参加したい。



土曜ランチが始まるまで

《子ども食堂が話題となり、「うちでもそんな活動をしてみたい」》

- 第2土曜日が出校日となった年。牧之原の子どもらは、学校が終わった後の昼ご飯はどうしているのだろうか？と思い、牧之原小学校の校長に話を聞きに行った。
- 学校側は、「生徒が下校後どのように過ごしているかまで把握はしていないが、子ども食堂的なものがあると助かる」との話。
- 翌年4月より、第2土曜のお昼に「土曜ランチ」を開催。
- 参加費は、子供も大人も200円。
- 公民館、子供会、女性部、長寿会等へ広報するが反応はイマイチ。
- それでも、子供たちとのふれあいを楽しみに、自分たちで持ち寄った食材などで昼ご飯を作った。

世の中にはうまくいかないことも・・・

《子供たちも忙しいのね・・・》

- 土曜ランチの第1回目。下校中の子どもに長寿会会長が「みんなでご飯食べるよ」と声をかけると、その子は一度家に戻った後、自転車に乗って颯爽と来てくれた。
- 1回目は1人、2回目が2人、3回目が2人・・・少人数ではあるが、毎回子どもたちが参加してくれた・・・
- そのうち、「部活が・・・」「塾が・・・」「習い事が・・・」「学童が・・・」と、徐々に足が遠のいてしまい、高齢者のみの参加に。
- 子どものための活動と考えて始めた活動だったが、一人暮らしの男性等にはたいへん喜ばれるため、高齢者向けの活動として継続中。



でも、あきらめない！

《年に2回、無料招待してみよう！》

- 今年6月から「子ども無料招待券」を導入。
- 6月は子供3人、お母さん2人の参加あり。
- 7月は無料ではなかったにも関わらず、3人の子供が参加してくれた【涙】
- この調子で、子供たちのふれあいの場として定着してくれば。
- これからも、年に2回はこどもの無料招待を続けていきたい。



西牧之原地区敬老会

《《私たちが「助けたい」と思ったその人も
「誰かの役に立ちたい」と願っている》》

- 女性部が中心となり、公民館役員、近隣ともしびの会、長寿会等地域全体として毎年開催。
- 「ごちそうを作るのはいいけど、後片付けが・・・」という声もあり、竹の皮に包んだ弁当作りをすることに。
- 最初は、みんなの返事が重い中ではじまったが、徐々に協力的に。
- 土曜ランチやサロンに参加する80代の女性が、「竹の皮くらいは私が取ってくるが！」と約100枚持参。支援を受ける側の人も支援する側に回れるような住民同士の関係づくりが大切。
- はじめは消極的だった人たちも、終了後は「人の役に立てた」と満足げな笑みを浮かべた。



最後に

- 近隣ともしびの会は、現在15名でさまざまな活動に取り組んでいるが、徐々に徐々に活動が停滞ぎみに・・・。
- 私自身は、この地域に生まれ育った人間ではないからこそ、いろんな人にいろんなことを教わりながら過ごしてきた。そんな「これまでお世話になったことへの恩返し」という想いを大切に、今後も活動を続けていきたい。

買い物よりおしゃべり！ 移動販売がもたらしたふれあいの場

溝辺町特産品協会
会長 笹峯 政幸

誇らしき 我が 溝辺町

- 鹿児島県のほぼ中央に位置する。
- 言わずと知れた「お茶」と「空港」の街。
- 世帯数:3,728世帯 人口:8,024人
(男性:3,762人 女性:4,262人)
- 「最期は自宅で過ごしたい」という人が
7割を超える「地元愛」の深い街。



- 市内全体の自治会加入率が
61.25%となったが、12の公民館で
加入率90%を超える地域
(最高は瀬竹の98.00%)。
- よこでーろは、市内の物産館で
売り上げナンバーワンを記録。

溝辺町物産館よこでーろの概要

- 鹿児島空港から車で5分。
- 営業時間: 9時30分～18時00分
- お休みの日: 1月1日～1月3日
- 2016年12月で創業20周年。
- 特産品のお茶をはじめ、とりたての野菜や果物、手作り食品、花等約1,000品の品揃え。
- 「よこでーろに来れば
なんでもそろそろ
そんな満足感を提供できるよう
日々奮闘中。」



品物をおさめる会員について

- オープン当初は17名の会員でスタート。
- 現在では約130名に。
- しかし、会員の高齢化も一つの課題。
- 若手育成のため、青年部を創設。
- 若手同士で勧誘したり、意見交換したり、活動が活発化。
- 青年部からの声

「今までやってきた人たちの昔の苦労話を聞いている。その人たちがいたからこそ、今のよこでーろがあるわけで、今度は僕達が支えて盛り上げていかなければならない！」

平成27年 移動販売開始

《移動販売の目的》

- ①地域の買い物弱者を救済する。
- ②高齢者等の見守りを支援する。
- ③ショッピングの楽しさを提供する。

《販売品目》

弁当、惣菜、お菓子類、豆腐、米、味噌
野菜類、果物類、肉、魚、生花
洗剤、ゴミ袋、トイレトペーパー、石鹸、シャンプー
歯みがき、線香、ろうそく、その他希望の品など

《販売価格》

基本的に物産館と同額。生活必需品は市価より安く。



溝辺町物産館移動販売車
よこで〜ろ号

お買い物に不便を感じているお客様、車での買い物が大変だと感じているお客様。
移動販売車「よこで〜ろ号」があなたの家の近くまでまいります。

🎵 懐かしい曲が聞こえたら、
よこで〜ろ号が近くに来ていますよ！




月曜日
海川切門衛公民館 ▶ 下青川公民館 ▶ 瀬竹公民館 ▶ 竹山公民館 ▶ 舟生附公民館
9:30~9:50 9:55~10:15 10:25~10:45 11:00~11:20 11:35~11:55

火曜日
竹子地区 ▶ 三縄公民館 ▶ 中野公民館 ▶ 隈北公民館 ▶ 水尻地区 ▶ 横頭公民館
9:20~10:00 10:05~10:25 10:30~10:45 10:50~11:05 11:15~11:30 11:35~11:50

水曜日
大川内地区 ▶ 石井地区 (西) ▶ 藤原中央地区 ▶ 隈南自治公民館
9:30~9:50 10:00~10:30 10:40~11:00 11:15~11:35

木曜日
玉村地区 ▶ 久保山市居住者 ▶ グループホームよいやんせ ▶ 南野公民館 ▶ 空瀬南タウン ▶ 隈南駐在所付近
9:30~10:15 10:20~10:40 10:45~11:05 11:10~11:20 11:25~11:30 11:35~11:45

金曜日
藤公民館 ▶ 坂井公民館 ▶ 立岩公民館 ▶ 鼻坂公民館 ▶ 別府公民館
9:30~9:50 9:55~10:15 10:20~10:40 10:45~11:05 11:10~11:30

●運行内容
販売内容は市民生活者の野菜、野菜、お菓子、豆類、卵、肉、魚、漬物、野菜、果物、色などです。
販売はよこで〜ろ号での販売活動です。
月曜日(月〜金曜日)、祝日も運行いたします。
雨天は、事前連絡により、運行を中止する場合があります。運行内容は随時変更してまいります。
ご希望があれば、お近くの物産館までご連絡ください。

●お問い合わせ先 溝辺町物産館よこで〜ろ ☎0995-58-2949

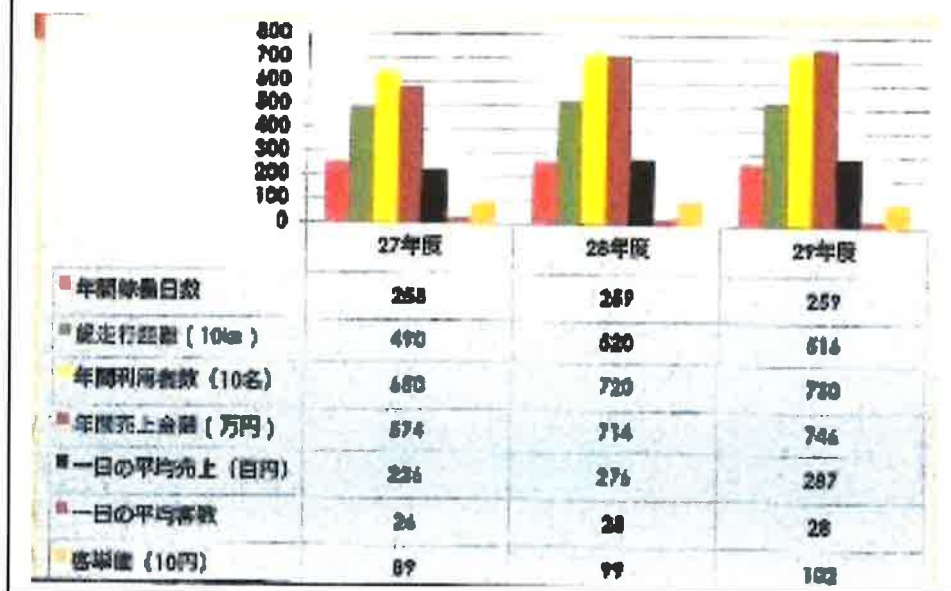


移動販売の様子





移動販売 年度別実績



移動販売先がふれあいの場に



移動販売先がふれあいの場に

買い物が終わっても
話題は尽きません



買うものがなくても
童謡が聞こえたら
おしゃべりに出てきます

民生委員の協力

- 移動販売開始当初より
民生委員の協力があり
独居高齢者宅の安否確認や
最近顔を見せない方の
状況確認等にも力を入れて
いる。

また、駐在さんや包括支援センターとの顔の見える
関係ができはじめ、連携がスムーズになってきている。



最後に

- 話は変わるが、築100年を超える古民家を改修中。
- 高齢者のサロンや子供たちの昭和体験など・・・完成を思うと夢が膨らむ♪



「霧島発 地域の絆」フォーラム①



受付の様子



会場の様子



市長あいさつ



社協会長あいさつ



趣旨説明



事例発表（徳永光和様）



事例発表（徳永光和様）

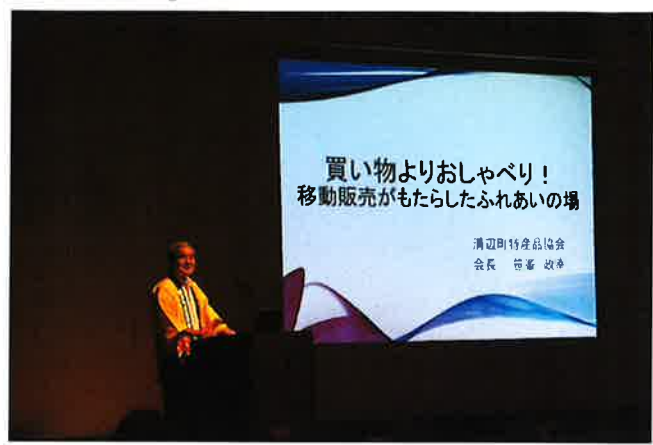


事例発表（久米村しげ子様）

「霧島発 地域の絆」フォーラム②



事例発表（久米村しげ子様）



事例発表（笹峯政幸様）



事例発表（笹峯政幸様）



コーディネーター（黒岩尚文様）



パネルディスカッション



パネルディスカッション



パネルディスカッション



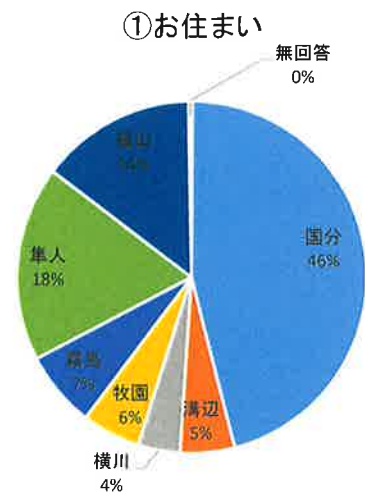
質疑応答

「霧島発 地域の絆」フォーラム アンケート結果

参加人数	325
アンケート回収数	257
アンケート回収率	79.1%

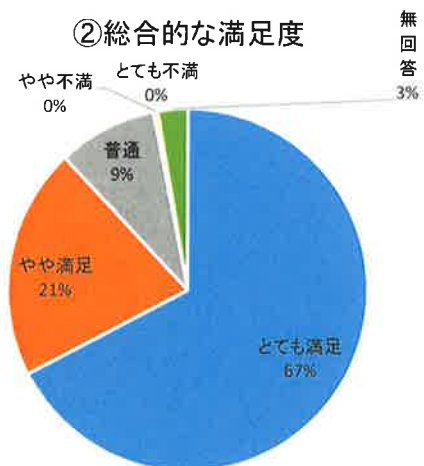
①お住まい

国分	118
溝辺	13
横川	10
牧園	14
霧島	18
隼人	46
福山	37
無回答	1



②総合的な満足度

とても満足	173
やや満足	53
普通	23
やや不満	1
とても不満	0
無回答	7



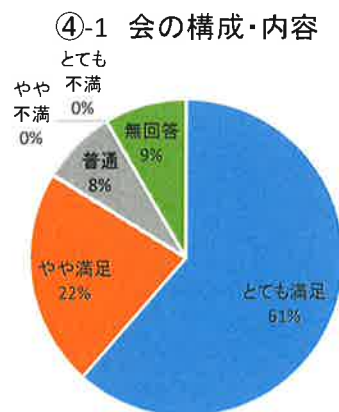
③満足度の理由

- ・来場者の拍手やうなずき、笑い声など全てが今日の開催の成功を物語っていたかと思う。
- ・できる人ができることをしながら、地域の人により生き生きとした生活ができるように支え合っている姿が伝わった。
- ・身近な人が発表するのは親近感があって良かったし、頑張っている姿が頼もしかった。
- ・よその地区の取り組みがよくわかった。自分の今後の取り組み方の参考になった。
- ・それぞれの取り組みが素晴らしく、たいへん参考になった。
- ・地域により人も環境も異なるので、各地区ごとにフォーラムを開催してほしい。
- ・今話題になっている地域のつながりの問題に、だいぶ前から先駆的に取り組まれていることに感銘を受けた。
- ・発表者の熱心な活動に心動かされた。自分の活動を見つめ直す良い機会になった。
- ・3人の発表がとてもわかりやすい話の進め方で非常に良かった。特に移動販売に興味を持った。

- ・話をする3人がうますぎる。あまりうまい人がしてしまうと、今後発表する人がいなくなる可能性があるのではないか？
- ・地域の中でまわりの人とつながりをつくる場をつくりたいと思った。
- ・自分の地域でも3者のような取り組みができたらと思う。元気をもらった。
- ・こういったフォーラムに参加するのは初めてで、とても新鮮だった。
- ・求める人がいる限りチャレンジしていくという姿勢に感銘を受けた。
- ・創生からの苦勞と発展させてこられた状況がよくわかった。
- ・自治会等の活動が難しくなっている状況の中で頑張られている姿にエールを送りたい。
- ・地域のみなさんとの日頃からのつながりを大切にしていかなければと痛感した。
- ・高齢な方々が頑張っていることに、とてもとても感動した。
- ・みなさん大変なご苦勞がある反面、協力者がいらつしゃることがうらやましく感じた。
- ・3人とも、「ついでいきたい」と思う人格者だと感じた。
- ・発表内容のバランスも良く、進行もスムーズで大変良かった。年に1回は話を聞きたいと思った。
- ・「地域のために何かできれば！」と思うばかりの自分を反省させられた。
- ・実生活にどう役立てていくか考えさせられた。
- ・成功事例だけでなく、失敗事例もまけてもらいたい。
- ・活動をしたくても住人の考え方がそれぞれで、問題が多すぎる。
- ・私もそれなりに活動しているが、まだまだだと感じた。もう少し頑張ってみようと勇気をいただいた。
- ・どんな雰囲気か見に来ただけ。
- ・輪番制の意味合いを考えさせられた。
- ・このような情報提供の仕方は非常に有効である。
- ・自分も地域のために何かしたいと感じた。
- ・自分が小さいころは隣近所で支え合ってきた。心温まる時代を取り戻したい。
- ・自分の地域でもできるのでは？と力をもらえるような内容だった。
- ・若い世代の参加が少ないと感じた。

④-1 会の構成・内容

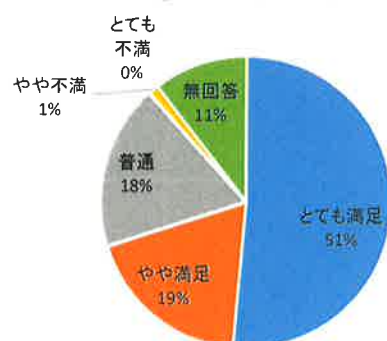
とても満足	158
やや満足	57
普通	20
やや不満	0
とても不満	0
無回答	22



④-2 開催日時

とても満足	132
やや満足	48
普通	47
やや不満	3
とても不満	0
無回答	27

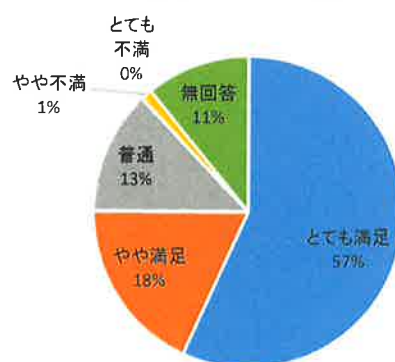
④-2 開催日時



④-3 開催場所

とても満足	146
やや満足	47
普通	33
やや不満	3
とても不満	0
無回答	28

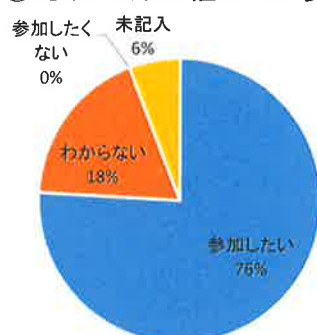
④-3 開催場所



⑤地域づくりの催しへの参加

参加したい	195
わからない	47
参加したくない	0
未記入	15

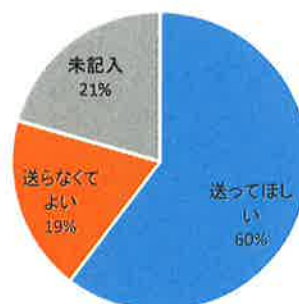
⑤地域づくりの催しへの参加



⑥催しの案内の送付

⑥催しの案内の送付

送ってほしい	155
送らなくてよい	49
未記入	53
⑦送付先記入者数	144名 (56.0%)



⑧ご意見・ご要望

- ・地域のパワーを感じた素晴らしいフォーラムだった。
- ・地域の絆を繋いでくれたスタッフに感謝。開催にあたり入念な準備をされた様子が伝わってきた。お疲れ様でした
- ・これから地域の中で自分の役割を見つけて、地域の力になれるよう努力していく。
- ・地域は、学校や老人会、警察等いろんな人が関係を深め成り立っているのも、いろんな人の話を聞いていきたい
- ・経費節約のため郵送での案内は不要では？チラシの回覧や団体等への参加要請で事足りるのでは？
- ・隣近所のふれあいの大切さを学んだ。
- ・フォーラム形式が非常に良かった。
- ・参加者が多く、このフォーラムの重要性を感じた。
- ・とても有意義な時間だった。
- ・皆さんのチャレンジ精神に感動した。
- ・若い人の参加がもっとほしいですね。
- ・初回の催しとしてはたいへん素晴らしい内容だった。大成功おめでとうございます。
- ・水分補給は会場内でできたらありがたい。高齢者がいちいちロビーに出るのはたいへん。
- ・地域でサロンをしているので参考にしたい。
- ・小さなことから始めてみるのが大切だと感じた。
- ・地域づくり・人材育成は、地域住民のやる気と自律が第1だと気付かされた。
- ・次世代のリーダー育成が必要だと思う。
- ・自治会に加入してもらうための活動を行政や社協が担ってほしい。
- ・各地域の取り組みをもっと聞きたい。
- ・できれば午前中にしてほしい。
- ・地域づくりには、リーダーと多数の協力者が必要だと感じた。
- ・ちょっと時間が長い。2時間くらいで終わるようにしてほしい。
- ・苦労話とそれをどう乗り越えたかといった話を聞きたかった。
- ・すべて素晴らしいの一言。
- ・とても良い企画で、私も微力ながら地域に貢献していきたいと思った。
- ・会場が狭かった。
- ・遅れてきた人の入場は、開会あいさつの途中では見苦しいので、あいさつ後に一括入場が望ましい。
- ・次は「やねだん」などの地域の特産品で成功している地区の話が聞けたらありがたい。
- ・今後も幾度となく計画してほしい内容だった。
- ・パネリストがみんな個性的な方でおもしろかった。3人とも話術に長けていた。
- ・進行上の待ち時間が少なく、また飽きがこないペースで非常に良かった。